

東京の産業と教育

会 の 目 的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

産業教育の在り方と重要性

株式会社カナック企画 相談役

金 子 昌 男



産業教育の在り方をもう一度原点に還って提言してみたいと思います。

モノづくり大国日本として、今日まで世界のリーダーたる地位を築いてこられたのも、先人たちのモノづくりに対する情熱があったから成し遂げられた事とありがたく思っております。このモノづくりに対する情熱が失われない限り、これからも産業教育の重要性は不変であると確信しております。

そこで教育現場の方々には、専門高校で学んでいる生徒諸君に、学びの誇りを持たせられるような教育指導をしていただきたいと願っております。

今では専門高校に入学していながら大学進学を目指している生徒が多くなったと言う話を耳にします。何故その様な現象が起きうるのか。それは専門高校の教育が誇りを失ってしまったからではないでしょうか。

今自分が学んでいる事に対しての意義と存在感を自覚できるような教育がなされたときに、生徒諸君に誇りを持たせる事が出来ると思っております。

一つ一つの学びに汗を掻く事を教えられるのも専門高校だからこそ出来る事と認識しています。そしてその汗を掻いた分だけ、完成した時の達成感を肌で感じ取れるのも専門高校の特徴ではないでしょうか。

汗とは「自分自身で物事の解決方法を創意工夫し、考え、知恵を出して、体験しながら完成させていく能力の発揮」と解釈しても良いでしょう。

汗を掻くと言う事は、苦しみを伴うものです。

その苦しみが大きければ大きいほど完成させた時の感動も大きくなるものです。

今の時代は大人の視点で、子供たちの利便性を追い求める結果、子供たちからみたら与えられる事が当たり前の時代になってしまいました。答えも簡単に出来ますが、答えを導く為の汗を掻いていないので、表面上だけの人間が出来上がってしまう傾向があり残念でなりません。物知りだけで知恵を出さなくても通る教育をするのではなく、常に新しいモノづくりに挑戦する意欲に燃えた人間、そして何より自分自身が誇りを持って生きていく為の、軸足をしっかり地に付けた人間形成をさせる事が産業教育の本懐ではないでしょうか。

私は不易流行と言う言葉が大好きです。現代の環境は戦後の高度成長時代から大きく変化し、そのスピードが物凄く早くなりましたが、若い人達はこの変化の速さに対応出来る能力を持ち合わせているし、このスピードが当たり前と思って生活しています。しかし不易の部分まで変化させてしまうと混乱の世の中になってしまうと危惧しています。

今の、この一瞬を粗末にすることなく、一日一日を大切にすること。その積み重ねが後になって実力の差として大きく開いてくる事を自然と身に付けさせる事が、教育の原点なり、と思っております。

教育現場の先生方には大変なご苦労とお察ししますが、人間を作り出すことも、又誇りの持てる事と思っております。日本の将来を背負う若人の為にご尽力くださることを願ってやみません。



〈実践報告〉

自己実現を促すキャリア教育の実践 ～町総の人材育成に向けた取り組み～

東京都立町田総合高等学校

副校長 鈴木 光 俊

1. はじめに

本校は、平成 22 年に開校した、東京都で 9 校目の総合学科高校である。『キャリア教育』を教育の根幹に据えて、社会人基礎力（考え抜く力、前に踏み出す力、チームで働く力）を育成しながら、生徒一人一人の進路実現を学校全体で『全力支援』する学校である。

2. 3 年間を通したキャリア教育

キャリア教育部と進路指導部が中心となり、1 年次の「産業社会と人間（2 単位）」から 2・3 年次の「探究の時間（2 年間 4 単位）」を中心に、3 年間を通して系統立てたキャリア教育に取り組んでいる。

（1）「産業社会と人間」の取り組み

『自己、在り方・生き方、社会』を見つめることを目的として、様々な体験的なプログラムを通してその学習を深めている。生徒たちは入学早々 2 泊 3 日の「新入生キャンプ」を通して、自己を知り、他者を受容し、チームワークの大切さを学ぶ。また「社会人インタビュー」を通して社会人としてのマナーや仕事への意識の深化を図る。さらに「産社発表会（3 月実施）」を通して、プレゼンテーション能力を育てている。このような学習と並行して、授業の選択指導も実施し、「自分の時間割」の作成を進めている。

（2）「探究の時間（課題研究）」の取り組み

授業や日常生活の中で感じた興味や関心、自分の将来などに関する「テーマ」を探し出し、調査・研究を重ねる。2 年次では「小論文」、「修学旅行」をテーマとしたまとめ学習等を行い、また 3 年次にまとめる卒業論文に向けた作業を開始する。3 年次では卒業論文の執筆を行い、「探究発表会（12 月実施）」で発表することを通して、表現力、知識を活用する力、想像力を育成する。また 2 年間を通じて、ロータリークラブや商工会議所等よりの外部人材を活用することにより、大きな効果を得ている。

3. 特色ある教育活動

（1）系列による実践的な授業

4 つの系列（暮らし・ひと・まち・自然）があり、衣食住や保育、福祉などの生活産業、情報関連のビジネスや販売の仕事、自然と関わる

様々な職業を目指す生徒たちの興味・関心を満たし、実習を通して知識と技術を身に付けるための授業を行っている。「役立つ生活学」や「日本と世界の食文化と調理」、「コミュニケーションデザイン」、「里山研究」等、興味深い多くの学校設定科目を設置している。



（2）言語能力向上に向けた学習活動

平成 22 年度より 3 年間言語能力向上推進校として、授業内でのビブリオバトルの開催を始め、高校生書評合戦首都大会決勝戦への進出、都立高校生「言葉の祭典」弁論の部で優勝など、推進校としての成果を残すことができた。今年度は言語能力向上拠点校としてさらに活動を推進していく。

（3）小笠原における修学旅行

開校当初より、修学旅行を小笠原（父島・母島）で実施している。往復に「おがさわら丸」を使用し、共同生活や自然の厳しさを学ぶ。また文化や自然を学ぶプログラムにより、小笠原を十二分に満喫する。さらに修学旅行中に行われるインターンシップを通して職業観・勤労観を育むと同時に、島の方々との交流を通してコミュニケーション能力育成の場にもなっている。

4. おわりに

様々な特色ある学校作りを展開し、開校 5 年目を迎えた。今後も生徒の自己実現に向けた取り組みを展開すると同時に、新しい時代の総合学科高校としての組織的な取り組みを推進する。

社会人基礎力を養成する学校 ～地域に根ざした商業高校～

東京都立第四商業高等学校

副校長 采 野 慶 明



1 はじめに

本校は昭和15年に旧学制の府立第四商業学校として創立され、75年の歴史と伝統に培われ、産業界で活躍する2万人以上の卒業生を輩出してきました。商業科と情報処理科の併設校で、最寄りの西武池袋線富士見台駅からの道は「四商通り」の名称で地元からも親しまれています。

2 教育理念と実践

『マナーの四商、資格の四商、社会人基礎力を養成する学校』をスローガンに掲げ、①規範意識を持ち②専門技能を身に付け③自立と協調精神をもって実践的に行動できる人材の育成を目標としています。

(1) 挨拶励行・礼儀正しい言葉遣いの励行

対人関係・コミュニケーションのスタートとなる挨拶を学校生活のすべての場面で励行し、互いの人格を尊重する姿勢を習慣として身に付けます。また、職員室等への入室時マナーを徹底指導し、社会人・企業人としての基本を身に付けます。

(2) ぶれない生活指導

校門指導・集会指導においては遅刻、服装、登下校時の交通マナーを、HR・授業においてはチャイム着席指導を、機会を捉えその意図を理解させるよう努め、生徒の自主性自立性を育てるように全職員が共通意識で指導しています。

(3) 基礎力の徹底

昨年度より「学力スタンダード推進校」「技能スタンダード推進校」の指定を受け、全生徒に確実な基礎力をつける授業を行い、ビジネス基礎で検証した結果を以降の授業に還元しています。

(4) 部活動奨励

商業系では全国大会に出場多数の珠算部、簿記部、ワープロ部があり、硬式野球部、女子バスケットボール部、女子バレーボール部では文化・スポーツ等特別推薦を行っています。全国選抜・関東大会出場のアーチェリー部をはじめバドミントン部、ソフトボール部、文化系では吹奏楽部、演劇部等が都大会上位を目指して活動しています。

(5) 情操教育・環境教育

園芸部、生物部は季節の花やニワトリの世話を通して、自然を愛する心を育み、在校生や近隣の方たちの目を楽しませています。また、初夏には奉仕活動の一環として、ゴーヤの苗を配り近隣にグリーンカーテンを広める活動も行っています。

(6) 資格取得・検定の実施

簿記検定、情報処理検定をはじめ秘書検定、販売士検定といった職種に直結する資格検定を9種目、年間23回を実施し、補講や面接指導と併せて進路意識向上と就職に対して自信をつけます。

(7) 先進教育

新学習指導要領で新たに導入された「電子商取引」の授業ではインターネット通販サイトの楽天とタイアップし、ネット上の商品を効果的にPRする方法や実際に商品を販売することによって取引のノウハウを実践的に学びます。

(8) ライフプランを考えたキャリア教育

昨年度も就職内定率100%を達成して、卒業生の半数強が就職しました。多様化する進路希望により、進学する生徒も半数近くいます。卒業時の進路だけではなく、ライフプランとして自己の将来や適性を考えて進路選択ができるように進路講話、適性検査、インターンシップ、職業研究、学部学科研究、オープンキャンパスへの参加、三者面談等を入学時より系統的に実施しています。

(9) 保護者・地域との連携

保護者会、授業公開、PTA活動で来校する保護者も多く、ひな人形や五月人形など季節に合わせた装飾が常時されています。「ビジュアルデザイン」の授業では近隣商店街のポスター作りを担当して地域に貢献しています。

3 おわりに

本校は地域に根ざして、ビジネス社会で活躍できる産業人を育成する教育を今後も推進していきます。

株式会社 日本化薬東京

資本金 5,000 万円 代表取締役 斎藤 哲雄
〒 123-0865 東京都足立区新田 1-23-1
TEL 03-5959-5111

従業員数：104名

事業内容：プリンター用インク色素および機能
製品の製造

【品質方針】

「お客様に安心して使っていただける製品の提供」

【環境方針】

全従業員が環境に配慮した行動をとり、地域社会と共生できる環境・操業基盤を作る

【社会貢献】

環境、安全衛生を経営の根幹と位置付けると共に、地域の方との交流を深め企業活動に対するご理解を深めていただけるよう、さつき祭やもちつき大会などを開催し、社会的な価値を創造してより一層の社会貢献に努めています。

インクや機能製品は情報化社会に不可欠な IT 製品の一部のみならず、様々な製品や生活用品の多くに使用されており、日々の生活に彩りを与え、世の中に貢献しています。

「進化する情報化社会」、実はこの中にも「色」はしっかりと存在しています。私たちは、この分野の製品を製造しております。これらは繊維用染料や紙用染料で培った製造技術をさらに進化させ、「高度情報化社会」のニーズに応える高品質で高付加価値のある製品です。

「お客様に信頼され安心して使っていただける製品を提供する」との品質方針のもと、広い視野に立って「色」に係るさまざまな分野に対応できるよう、世の中の「色」を探求し、社会や産業に貢献できる多彩な製品を創造しています。



山崎教育システム株式会社

〒 189-0003 東京都東村山市久米川町 5-33-24 TEL:042-392-1111
設立：昭和 36 年 従業員数：50 名
販売地区：全国 10,650 校の中学校 (全国代理店 500 社)

次世代を担うテクノロジー活用人材の育成に貢献します。

弊社は昭和 36 年設立以来、技術教育教材専門企業として、中学校「技術・家庭科」教材を企画・開発しています。昨今の工学部離れが深刻化する中、ものづくりに携わる若者が減少しています。

その改善策として、理科教育の充実のみがクローズアップされていますが、「真理の探究」である理科教育とともに、実社会における「活用の創造」を育む技術教育の重要性は大きいと感じます。「教えやすく」「楽しい学び」をコンセプトに、

授業のシステム教材を提案しています。ロボット制御教材、電気教材、生物育成教材、材料と加工教材など様々な教材が全国の中学校で活用されています。

ものづくりを通して、産業や技術に興味を持ちイノベーションを起こす人材や新しいテクノロジーを積極的に活用する生活者が増えることを期待しています。



検 定 を 通 し て

私は食を専門的に学びたいと思い、忍岡高校の生活科学科に入学しました。ピーツのような食べたことのない食材を使った実習やぬか床を作り3ヶ月間ぬか漬けを作ったり、外部講師の方によるコーヒーの授業など、日々の授業は専門的で新鮮なことばかりでした。私は元々パティシエになることが夢で、入学前はお菓子作りの一点に興味がありました。しかし、食の知識が深まるにつれ、食のこと全てに興味を持つようになりました。今私は2年間学んできた集大成として、課題研究という授業で自分の興味のあること、朝食欠食について調べています。そして、課題研究と並んで取り組んでいることに検定があります。生活科学科の特徴の一つは検定です。1年次には被服製作技術検定と食物調理技術検定の4級、3級、文書デザイン検定の2級を受けました。私は実技が得意ではありませんでしたが、練習の成果あって合格することができました。私は検定のおかげで技術と自信を身に付けることができたと思っています。2年次には食物調理技術検定の2級を受けました。お題に合ったお弁当を考えて作るというもので、約1年かけて試行錯誤をして挑み、合格することができました。そして今、食物調理技術検定1級取得を目指しています。この検定は

東京都立忍岡高等学校

生活科学科 3年 湊谷 夏未

フルコースを作るというものです。入学前から過去の先輩方が作ったフルコースの写真を見て、私も作れるようになりたいと思っていました。練習していて難しさを実感しています。これまで検定を受けてきて思ったことは、入学すれば検定に合格できるだけの技術が身に付くのではなく自分がやった分だけ結果がついてくるということです。ずっと目標にしていた1級を取得するために、練習に励んでいきたいです。

私は将来、食関係の仕事に就きたいと考えています。これからの人生の中で、この高校生活で学んだことや得たものを思う存分発揮していきたいです。



昭 和 鉄 道 高 校 に 学 ん で

私が鉄道高校を選んだ大きな理由は電車が好きだからだけではなく、乗物の中でも電車の必要性を強く感じて、その業界に入りたいと思ったのと、その道に進むための近道だと考えたからです。中学生の頃、私は進路に悩み何気なく東京の私立高校のホームページを検索していて、偶然鉄道高校を見つけ興味を持ちました。それは乗り物好きな私にとってとても目を引くもので、さっそく母と相談し受験を決めました。

入学をしてみると、在校生の9割以上が男子で、私はこれからやっていけるのかなと大変不安になりました。



昭 和 鉄 道 高 等 学 校

鉄道科 3年 宮下 日那

しかし男子のクラスメイトと話してみると、自分と似た趣味を持つ人が多く、話すことがとても楽しくなりました。車や飛行機、アニメに政治経済など多趣味な自分でも話が合う人が多くユニークな学校だと感じました。それは先生方も同じで、とてもユニークで熱心な先生が多いです。進路や勉強だけでなく、学校生活でも気に掛けてくれる良い先生が多くとても安心しました。2年生で、鉄道の駅で駅係員の実習があるのですが、私は接客を学びたくて鉄道系列ホテルでホテルマンの実習をさせて戴きました。そこでは、挨拶に始まる接客の研修やルームクリーニング、備品の準備など、ホスピタリティの大切さを学びました。また、部活動は英語部に所属し英語の対話力を磨いてきました。毎年都内の観光地で外国人の方に街頭インタビューをしてVTRにまとめ文化祭で発表しました。おかげで英語で話し掛けられてもドキドキしなくなりました。街角で外国人の方に話し掛けられて、しっかり対応できた時はとても喜びを感じました。資格では実用英語技能検定だけではなくGTECにも力をいれています。

将来は鉄道会社に就職し、海外からのお客様が楽しい旅行や快適な仕事が出来るようにサポートをしたいです。そのために、これからも片道約3時間の電車通学を続け、勉強に励みたいと思います。

平成 26 年度 総会・功労企業表彰 報告

平成 26 年度総会・功労企業表彰及び講演会が 6 月 3 日(木)午後 2 時から、都庁第二本庁舎 31 階特別会議室 21 において開催されました。

来賓に公益財団法人産業教育振興中央会専務理事富岡逸郎様、東京都中学校長会副会長の常盤隆様(立川市立立川第二中学校長)をお迎えしました。

開会にあたり、西澤宏繁会長から「本会は、産・学・行政の三者が、職業人の卵をしっかりと教育していくために、互いに協力していくために設立された会です。しかし、社会の情勢が現場の力を非常に重視しなければならない時代に入りつつあると思います。世界とどのように付き合っていくか、また、科学技術の展開ということがなにより大事であり、それを支えるのは結局は現場であるということが実感されてきていることと思います。

都立の専門高校を見学させていただくと設備等も豊かにできている、しかし希望する生徒数が減少している。そういうなかで、会をサポートいただく方たちを増やしていかななくてはいけない。卒業生が就職している会社を中心にお声掛けしていくなど相談してまいりたいと思います。

また、来年度本会は設立 60 周年を迎えます。一つの区切りとなる作業をしたいと思いますので、よろしく願いいたします」との挨拶がありました。

引き続き、常任理事の堤雅史都立学校教育部長に代わって松川桂子特別支援教育推進担当部長から次のような挨拶がありました。

「本会は産業界、教育界、行政が協力しながら産業教育の振興に寄与するということを目的に発足して半世紀以上にわたる活動を通して多くの成果を挙げてまいりました。東京都教育委員会では、これまで総合学科高校、産業高校、科学技術高校、デュアルシステムなど特色ある学校づくりを推進してきましたが、高度情報化、グローバル化に伴う社会・経済の構造的な変化など生徒を取り巻く状況は大きく変化してきています。このため、都教育委員会では平成 24 年 2 月に策定した都立高校改革推進計画に基づき、専門高校の改善を進めています。昨年 4 月には都立専門高校技能スタンダードを策定し生徒の専門的な技術・技能を確実に習得させ有用

な資格取得を促進する取組を開始しました。また、昨年 12 月には都立専門高校改編基本構想検討委員会を設置し今後の専門高校の在り方に関して検討を行っているところです。こうした施策を実効性あるものにしていくためには、企業や他の教育機関のご支援やご協力が不可欠でございます。昭和 30 年の設立以来、産業界、教育界そして行政が一体となり産業教育の振興に取り組んできた本会も、来年は設立 60 周年を迎えます。本会と都教育委員会との連携は今後ますます重要なものとなってまいります。本日の総会においても会員の皆様の忌憚のないご意見、ご指導をいただければ幸いです。よろしくご支援のほどお願いいたします。」

来賓の富岡逸郎様、常盤隆様よりご挨拶をいただきました。また、東京都公立高等学校長協会会長柴田哲様からのご挨拶を、徳田安伸副会長に代読していただきました。

西澤宏繁会長を議長として、事務局から 6 議案が提案され、審議の結果、各議案とも原案通り承認されました。総会資料等承認議案については会員企業、学校等に配布済みです。

本年度の役員を紹介いたします。

会 長 西澤 宏繁(留任)
副 会 長 金子 昌男(留任)
同 小林 治彦(留任)
同 徳田 安伸(留任)

(東京都立園芸高等学校長)

理 事 長 比留間英人(留任)
常任理事 堤 雅史(留任)
同 山本 謙治(新任)

議事終了後、産業界会員功労者(永年会員)として有限会社東京プリンテック様を表彰する旨報告いたしました。



新 会 員 校 の 紹 介

東京都立大泉高等学校附属中学校

〒 178-0063 東京都練馬区東大泉 5-3-1

TEL : 03-3924-0318 ファクシミリ : 03-3924-9931



本校は開校5年目のまだまだ新しい中学校ですが、母体校である大泉高等学校はすでに創立73年となり、そのよき伝統を継承しつつ、自主・自律・創造の精神を育み、国際社会におけるリーダーの育成を目指しています。

「自校完成型教育システム」を導入し、学力の定着を図るとともに『探究の大泉』というスローガンのもと、生徒たちが課題解決の方法を探り、発表する中から新たな課題を発見して、さらに探究を深めるというサイクルで学習を進めています。『探究の大泉』の特色の一つとして、『土曜講座』と『総合的な学習の時間』に大きな特徴があります。『土曜講座』では、いろいろな方面で活躍されている一流の専門家の先生方をお招きし、科学技術やデザインなどの分野についての講演等を実施しています。生徒の知的好奇心や科学技術への関心を高め、自分の将来についても考えさせる機会となっています。また、『総合的な学習の時間』では、マインドストーム（*1）を使って機械制御の技術を学ぶことや、企業と協力してパソコン分解を通して3R（*2）を学び、循環型社会を体験する学習にも取り組んでいます。また、「ひまわり等の栽培と観察」では環境について学び、「自己表現」では演劇を通して表現力を育成しています。これにより、幅広い教養と豊かな人間性を養い、しっかりとした将来展望を持つことに役立たせています。

また、「自己完成型教育システム」の一つで

ある「T I R（ティーチャーインレディネス）」では、放課後、生徒が自由に学習できる学習支援ルームを設定し、自主的・主体的に自学自習に取り組むシステムを導入しています。授業においても理科の時間数を増やして「実験・観察」を重視し、広大な学校敷地内の自然を探究したり、コンピュータや視聴覚機器を大いに活用してより具体的に「わかる授業」を展開するとともに、生徒自身もコンピュータなどの機器を自ら使って研究成果を発表するなど、プレゼンテーション能力の育成にも役立たせています。加えて数学と英語では少人数制を取り入れ、生徒一人一人にきめ細かく対応できる体制を整えています。とくに『中高一貫教育校』としての特色を生かして、中学・高校での教育内容の重複部分を精選し、より効率的な指導が行えるよう、6年間を通じたカリキュラムを構築しています。

（*1）レゴ社から出ている、プログラム可能なロボットパーツセット。

レゴブロックでロボットのハードウェアを作成し、レゴブロックに似たブロックをパソコン上の画面で組み上げてソフトウェアを作成することで、思い通りに動作するロボットを作成することができる。

（*2）循環型社会を形成するための標語

Reduce：減らす Reuse：繰り返し使う

Recycle：再資源化



平成 26 年度「作文コンクール」募集のご案内

当会主催「作文コンクール」の作文を募集中です。対象は都内の中学生と専門学科等の高校生、専修学校生等です。募集要項はすでに各会員校に配布してあります。さらに当会のホームページに掲載していますので募集要項と合わせてご覧ください。

応募された作品の内から最優秀作品と入選作品には記念品を、入選者以外の応募者全員に参加賞を差し上げます。また、入選作品は「明日に生きる－作文コンクール入選作品集－」として冊子にまとめ会員校や会員企業に配布します。詳しくは各校の担当の先生にお尋ねください。なお、応募の締め切りは平成 26 年 9 月 12 日(金)です。多くの生徒や学生からの応募を期待しております。

第 24 回全国産業教育フェア宮城大会のお知らせ

全国産業教育フェアは専門高校等の生徒の学習成果を総合的に発表するイベントです。各都道府県教育委員会との連携・協力を得て、全国的な規模で開催することにより、全国の専門高校等の生徒の学習意欲を高めるとともに、産業界、教育界、国民一般への専門高校等の魅力的な教育内容について理解・関心をも高めることを目的としています。さらに、新たな産業教育の在り方を探り、新しい時代に即した専門高校等における産業教育の活性化を図り、その振興に資することを目的とする事業です。

第 24 回全国産業教育フェア(さんフェア宮城 2014)は宮城県で平成 26 年 11 月 8 日(土曜日)～9 日(日曜日)の 2 日間、まなウェルみやぎ(名取市美田園)の他 4 会場で開催されます。

開催内容は、作品展示、実習・体験コーナー、震災復興関係展示、学校生産物等展示販売、作品・研究発表、意見・体験発表、参加・交流イベント、ファッションショー、キッズビジネスタウン、海洋実習船「宮城丸」の船内見学、高校生レストラン、総合開会式・閉会式です。

また同時開催として第 13 回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト、第 22 回全国高等学校ロボット競技大会、第 3 回全国高校生介護技術コンテスト、第 32 回宮城県商業高等学校英語スピーチコンテストの競技大会も行われます。

詳細は、「第 24 回全国産業教育フェア 宮城大会(さんフェア宮城 2014)」のホームページをご覧ください。

東京都産業教育振興会 ホームページアドレス

<http://www.tosanshin.org/>

事務局より

- 平成 26 年度会報「東京の産業と教育」第 146 号をお届けいたします。発行に際してご協力頂きました皆様に厚くお礼を申し上げます。
- 東京都の産業教育をさらに飛躍させるために活動するとともに、情報等をお知らせしています。会員の皆様からのご感想、ご意見などをお寄せください。

発行 東京都産業教育振興会
〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1
東京都教育庁都立学校教育部
高等学校教育課内
電話 03-5320-6729
FAX 03-5388-1727
印刷 昭和印刷株式会社

再生紙を使用しています
印刷用の紙にリサイクルできます